

# 小学校 特別活動

## 指導のポイント

児童のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて、共通理解を図るとともに、教師相互の話し合いや情報交換を積極的に行うなど、学校全体で組織的、計画的に行うことが大切です。

## 評価のポイント

児童が自信を持ったり、意欲を高めたりすることにつながる評価となるようにすることが重要です。活動の結果だけでなく、活動の過程における児童の努力や意欲などを積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切です。

## 1 「評価の観点」とその趣旨、並びに「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順(参考資料 P27~30)

① 学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認する。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

【初等中等教育局通知(H31.3.29)(改善等通知)別紙4より】

② 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する。

特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。



\*特別活動における資質・能力の視点(「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」)をもとに重点化を図った例

観点	集団や社会に参画するための知識・技能	協働してよりよい生活や人間関係を築くための思考・判断・表現	主体的に目標を立てて共によりよく生きようとする態度
趣旨	多様な他者と協働し、集団の中で役割を果たすことの意義や、学級・学校生活を向上する上で必要となることを理解している。 よりよい生活づくりのための話し合いの手順や合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	多様な他者と協働して、よりよい生活や人間関係を築くために、集団や個の生活上の課題について話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりして実践している。	学級や学校の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとしている。

③ 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

各学校の実態に合わせて設定します。



④ 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

### 「知識・技能」のポイント

話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成します。

### 「思考・判断・表現」のポイント

話し合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して、課題を解決することと捉え、評価規準を作成します。「表現」は、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉えることとします。

### 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成します。身に付けた「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を生かして、よりよい生活を築こうとしたり、よりよく生きていこうとしたりする態度の観点を具体的に記述します。各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話し合いや実践活動に取り組み、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用います。

## 2 特別活動の学習評価の工夫

児童が自信をもったり、意欲を高めたりすることにつながる評価となるようにします。

☆児童一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが極めて重要である。

☆指導と評価に当たっては、各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「児童のどのような姿」を目指すのかを検討し、共通理解を図ってその取り組みを進めることが求められる。そのうえで、「目指す児童の姿」に照らして、十分満足できる活動の状況が見られた場合に指導要録に○を付ける。

児童のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて共通理解を図るとともに、教師相互の話し合いや情報交換を積極的に行うなど、学校全体で組織的、計画的に行うことが大切です。

「十分満足できる活動の状況」の児童の姿(参考資料 P46)

◎目指す児童の姿  
みんなで頑張ったことを認め合う内容はどれがよいか根拠を明確にしなが  
ら発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。  
【思考・判断・表現】〈発言・観察〉

学習指導案には、十分満足できる活動の状況を的確に見取るため、具体的に児童の姿をいくつか想定し記述します。

## 3 観点別学習状況の評価の総括(参考資料 P50)

以下は、どの議題にも共通する項目を定めて評価し、機会を捉えて顕著な事項を見取って記録した結果が、学期や年間を通して一覧で見られるようにした評価補助簿の例です。学級会ノートにおける事前の意見や実践後の振り返り等の記述を参考にしたり、話し合いや実践の様子を観察したりしながら、機会を捉えて評価します。

学級活動(1)における評価補助簿の例

		知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
		と話し合いの進め方を理解して、ま	いたり、意見のよさを生かしたり、発言したりして	うし、意欲的に取り組む	の決定したことや自分	
1	A	○	○	○○	7/16 集会の準備を休み時間に一生懸命行い、全員分のメダルを作っていた。	○
2	B	○	○	○	9/17 学級会では、みんなが納得するアイデアを改善策として発表していた。	○
3	C					
4	D			○		
5	E	○○	○○	○○	6/15 準備をしたりクイズを考えたりと主体的に行動し、みんなを楽しませた。 9/17 司会を務め、出された意見を生かして合意形成を図ろうとしていた。	○

どのような姿を見取るのかを補助簿に具体的に示しておくことも考えられます。

「○」やメモの記述がない児童について、児童の良さを積極的に見取るために、機会を捉え重点的に評価したり、課題を把握し個別の指導を図ったりし、評価を指導に生かすことが重要です。

一連の学習過程を通して、児童の様子の観察やノートの記述等を参考にしながら、機会を捉えて評価します。十分満足できる活動の状況の場合、その都度○を付けたり、メモ欄にその様子の記述を加えてメモを書いたりします。

## 4 児童指導要録における特別活動の記入例(参考資料 P41)

特別活動の記録		学年					
内容	観点	1	2	3	4	5	6
学級活動	○よりよい生活を築くための知識・技能	○		○	○	○	
児童会活動	○集団や社会の形成者としての思考・判断・表現		○			○	
クラブ活動	○主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度				○		
学校行事	余白		○	○		○	

・各活動、学校行事ごとに、「十分満足できる活動の状況にある」と判断される場合に○印を記入します。

・特別活動は、担任以外の教師が指導することも多いことから、評価体制を確立し共通理解を図って子供たちのよさや可能性を多面的総合的に評価することが求められます。

全学年共通の評価の観点を記入します。観点の変更がある場合を想定し余白をとっておきます。

例えば、児童指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に、○をつけた根拠を簡潔に示すようにします。